

平成19事業年度事業計画認可について（概要）

1. 平成19事業年度事業計画の概要

本事業計画（平成19年4～平成20年3月）では、高速道路の新設・改築、維持・修繕において、3,595億円の事業を行うこととしています。

サービスエリアや駐車場事業等の関連事業において、768億円の事業により、お客さまサービスの向上のための施策を実施し、当該年度約15億円の純利益を見込んでいます。

2. 高速道路の新設・改築

地域の発展と暮らしや利便性の向上に貢献する、より安全で使いやすい高速道路ネットワークを構築することを目的とし、近畿自動車道（第二名神高速道路他）などを含む13道路276kmの区間の新設事業及びインターチェンジの新設事業等と、近畿自動車道（阪和自動車道）の4車線化などを含む3道路49kmの改築事業を行ってまいります。

（高速道路の新設・改築に1,872億円の事業）

276Kmには、第二名神の当面着工しない区間（大津JCT～城陽、八幡～高槻第一JCT）の延長35Kmは含まない

（事業計画）

本事業年度の新規開通区間は、近畿自動車道（阪和自動車道）みなべ～^{たなべ}田辺間の約6km及び一般国道1号（第二京阪道路）阪神高速接続部～^{おぐらいけ}巨椋池の約1kmを予定しております。

- ・ みなべ～^{たなべ}田辺間の開通により、阪和自動車道が更に南伸することで、和歌山県南部地域と阪神都市圏との利便性が一層向上し、沿道地域の社会・経済活動の活性化に貢献します。
- ・ 第二京阪道路の阪神高速接続部～^{おぐらいけ}巨椋池間の開通により、既に開通している第二京阪道路と阪神高速道路(株)で事業を進めている阪神高速油小路線（仮称）とを連結し、京都・大阪の二大都市圏の利便性の向上が図られます。

工事中のIC名称は仮称です



阪和自動車道みなべ～田辺の現況（平成18年12月撮影）



第二京阪道路阪神高速接続部～巨椋池の現況

（平成19年1月撮影）

事業実施にあたっては、安全・安心の向上のための品質確保として現場での品質管理体制や入札時の審査の強化（契約価格適正化制度の導入）に努めます。また、技術力の向上と先進的な技術開発に取り組むとともにコスト削減を図ります。

環境への取組みとして、CO₂固定吸収のため道路のり面の樹林化を進めるとともに、工事発生材の抑制・再利用・植物発生材のリサイクル、グリーン調達など3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進します。また環境マネジメントを推進し、その取組み状況を公表します。

3 . 高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理

お客様に満足いただける100%安全、安心な高速道路の提供をめざすとともにパートナー会社と一体となった効率的な管理体制構築に向けた基盤づくりを行います。

平成19事業年度の管理延長は、中央自動車道（名神高速道路）などを含む計40道路3,258kmの区間で事業を実施します。

（維持、修繕、災害復旧その他の管理に1,723億円の事業）

（事業計画）

耐震補強工事など西日本の地域特性を考慮した自然災害に強い道路づくりに取り組むとともに、道路構造物の老朽化に適宜適切に対応し、次世代へ健全度の高い道路を引き継ぎます。

交通事故防止対策の強化など、良好かつ快適な道路の管理を行い、安全と安心を確保します。

- ・ 線形の厳しい箇所¹や相対的に事故の多い箇所²の緊急交通安全対策を実施します。



（強化型防護柵）



（暫定2車線区間の凹凸型路面標示）

お客様へのきめ細かな情報提供や快適なサービスエリア・パーキングエリアの創造及び、ETCの利用促進等に取り組むCSの向上と信頼性の向上を図ります。

- ・ お客様満足度の低いお手洗い改善の推進（3Kから4C+1E³）します。
- ・ 休憩施設における情報提供を充実します。



（改良後のお手洗い）



（休憩施設における情報提供イメージ）

適正な管理水準を常に検証するとともに、IT等新技術を積極的に用いた技術開発により業務の効率化を図ります。

- 1 平面曲線半径R 380mかつ縦断線形 4%（下り）並びに、それに準ずる線形の厳しい箇所。
- 2 5件/300m・年（西日本管内平均の5倍）または路線平均の事故率が5倍の箇所等。
- 3 4C（明るいClear・清潔Clean・快適Comfortable・魅力的Charming）+ 1E（環境配慮Ecology）

4. 関連事業等

中央自動車道西宮線大津サービスエリアなど251箇所のサービスエリア・パーキングエリアの管理・運営や、国・地方公共団体等からの建設に関する受託事業を行ってまいります。その他、駐車場事業やトラックターミナル事業、不動産賃貸事業及びWebサイトなどの広告事業や出版事業などを計画しています。また、収益の一部をお客様サービスとして還元します。

(関連事業に768億円の事業)

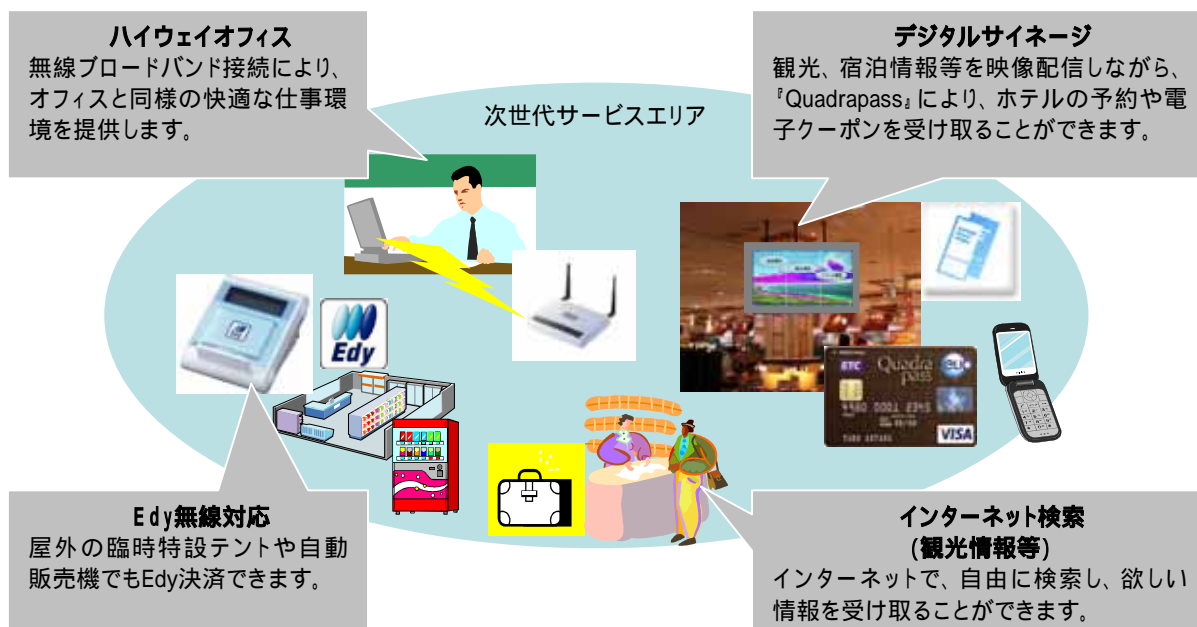
(事業計画)

サービスエリア・パーキングエリアについては、管理運営を行う西日本高速道路サービス・ホールディングス(株)と一体となって、お客様の価値観やライフスタイルの多様化、国際化の進展、国内の高齢化等、社会・経済情勢の変化に伴う様々なお客様ニーズに応えるため、高速道路のサービスエリア・パーキングエリアを休憩施設からお客様満足施設へ変革してまいります。

サービスエリア・パーキングエリアにおいて、地域特性を活かした土産物の提供などによるサービスの向上を図るとともに、地域交流の場としての活用や環境改善の取り組みを通じて、地域社会の発展に寄与します。

西日本サービスエリアガイドを活用した情報提供の充実やサービスエリアのインフォメーション案内員の接客スキル向上を図り、お客様とのコミュニケーションの拡大を推進します。

カード事業の推進を図るとともに、サービスエリア・パーキングエリアにブロードバンドインフラを整備して、ユビキタスな環境の次世代のサービスエリアをめざします。



ユビキタス・サービスエリアのイメージ

その他の事業については、既存事業の経営の効率化に努めるとともに、事業の多角化をめざして、保有不動産を活用した不動産賃貸業や他企業とのタイアップによる事業機会の創造にチャレンジします。